

# 平成27年(1月~12月) 人身事故発生状況



危険箇所を把握し、事故防止に努めましょう！



## 交通事故多発箇所

【国道 292 号線  
一本木バイパス  
一本木交差点】

- ・信号待ちの車に衝突するなどスピードの出し過ぎに注意！

長野県北信合同庁舎

永田小学校

中野市  
豊田支所

高社中学校

市民体育館

中野小学校

江部交差点

市役所

信州中野駅

信州中野 I C

## 死亡事故発生！

【東江部地籍 新保安源寺線】

- ・夕暮れ時の交通事故防止！

## 死亡事故発生！

【片塩地籍 江部川沿い】

- ・高齢者の交通事故防止！

- 死亡事故発生場所
- 事故発生場所 (1回)
- 事故発生場所 (2回)
- 事故発生場所 (3回)
- 事故発生場所 (4回)

# 公共施設の現状を考える

～中野市を **次世代** へつなぐために～

公共施設削減目標 **△20%** をめざして



## 公共施設とは

国や地方自治体が建設する施設。中野市公共施設白書では、公民館や図書館など市が保有する建物や、公園など広く市民が利用する施設を対象としています。

問い合わせ先 政策情報課行政管理係

☎ (22) 2111 (内線401)

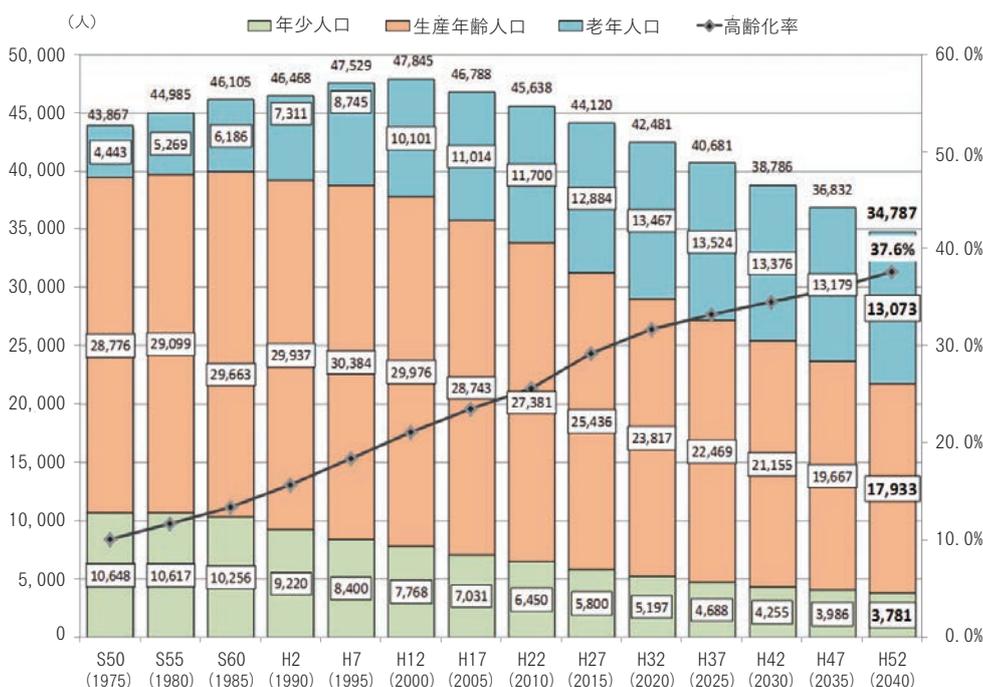
人口減少ならびに少子高齢社会を迎え、生産年齢人口の減少による市民税などの歳入減少が見込まれる一方、扶助費などの歳出増加が予想されています。そのため、今後はますます公共施設を維持するために必要な投資的経費や維持補修費に充てられる財源の確保が厳しくなっていくものと見込まれます。

今回は、こうした状況下で公共施設を維持するための将来負担コストについてお知らせします。

また、本年4月18日に「中野市公共施設等総合管理計画」を策定し、市公式ホームページで公開していますので、併せてご覧ください。

## 将来負担コストの見通し ～データで見る中野市の公共施設の姿～ (中野市公共施設等総合管理計画より)

【図1】本市の年齢3区分別人口構成の推移



(資料)総務省統計局「国勢調査」、長野県「毎月人口異動調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」



### Check 1

2040年には、本市の総人口は34,787人(ピーク時:2000年比で27.3%減)に、生産年齢人口は17,933人(ピーク時:1995年比で41.0%減)に大きく落ち込むことが予想されています。(図1参照)



### Check 2

この状況下で現在保有する公共施設を維持し続けた場合、今後40年の市民1人当たりの年間推計負担平均額は60,487円(過去5年比で333.5%)になります。(表1参照)

【表1】人口減少を考慮した将来負担の推計

過去5年間の平均人口 (2011～15年)		今後40年間の平均人口 (2016～55年)		倍率 (B/A)
44,671人		38,025人		
単年平均	1人当たり(A)	単年平均	1人当たり(B)	
8.1億円	18,133円	23.0億円	60,487円	



市民1人当たりの負担額を現状程度に維持した場合、公共施設の7割以上を維持することができなくなります。